

メープルレター（95）

初夏

春になれないまま初夏になりました。このままだと、初夏も通過し、一気に真夏になってしまいそうです。天気予報によれば、猛暑の夏になるとか。

気がつけば、6月に手が届きそうです。先日、雨の合間にドリトル先生の船のマリーナまで様子をみに行ってきました。まだ桟橋に着いている船はまばらで、手入れをしている人の姿も見られず、遅めのリラの花がひとけのないクラブハウスの隣で香りをおさえられるかのようにひっそりと咲いていました。何もかも遅れがちの季節です。ドリトル先生の船は、モーターを修理中で桟橋に着けるまでにはだいぶ時間がかかりそうです。

マリーナをゆっくり走っていると、待ったがかかりました。カナディアングース（カナダがん）の親子が散歩中でした。「可愛い！！」黄色のふわふわのカシミアの毛糸の塊のような10羽の子グースたちが両親にはさまれて散歩していました。待ったをかけたのは、付き添いの大きな二羽のグースでした。首をもたげ羽を広げて、クワンクワンと叫びながら親子の行列の横にぴったりとくついて警護していました。親子グースは行ったり来たり、10分ほど散歩をすると、船の間の水の中に消えていきました。

「待つしかないよね。」

ドリトル先生もマダム田中も、黄色い塊の子グースに見とれておりました。親グースたちも実に美しいのです。湖の一角にあるマリーナのまた一角の和やかな風景でした。

それをさかのぼる母の日は、マダム田中には楽しいひと時でした。

「お届けものです」

と久しぶりに顔をだしたのは、ドリトル先生の剣道の生徒です。韓国人の彼は、しゃれた花屋を奥さん開いていて、父の日には

「僕から先生にです。」

と蘭の鉢植えを届けてくれることも少なくありません。この日は、

「ご次男からマダム田中に母の日のプレゼントです。」

とクレマチスの鉢植えが届きました。次男とこの花屋さんは剣道仲間でした。次男は、遠くに引っ越し、花屋さんは、脚腰が痛くなり剣道をやめ、それぞれがドリトル先生の剣道の道場から遠ざかっていました。そういうドリトル先生も、ほぼ竹刀をにることのない暮らしが2－3年ほど続いています。花屋さんは、玄関先で、5分ほどドリトル先生と楽しそうに話をすると、次の花の届け物のため仕事に戻っていました。この時期は花屋さんには稼ぎ時です。花屋の年間収入の半分をこれで稼ぐと言われています。以前は、母の日に娘や息子がお母さんに花束をそっと送るものだったのですが、今は、ご主人が、子供の母親である奥さんに花束を一つ、自分の母親に花束を一つ、奥さんのお母さんに一つ、と3つの花束を贈るそうです。花屋の仕事は三倍になりました。マダム田中の義理の次男は、子供達の母親である、自分の奥さんに花束を一つ、自分の母親に一つ、義理の母親の私に一つ、やはり3つになりました。奥さんのフランスの実家は遠距離のため省略です。花屋は、この時期はただ黙々とロボットのようにひたすら花束を作り続け、店先に置き、注文によってはあちこちに送り届けるのだそうです。

娘は母の日にお茶に招待してくれました。娘も孫もビールス性の風邪で身動きがとれませんでしたので、マダム田中が娘の家にいくことになりました。そこで、娘からまた花束を一つ受け取ることになりました。家中花だらけです。

その翌週末は、義理の次男がケベックから、1週間遅れで、自分の母親の母の日のお祝いを長男一家とするからとやってきました。次いでということもあり、

「そっちに行ってもいいかなあ。お茶だけでいいから、ちょっとだけ会いたいし。」

と家族全員でやってきました。お茶だけというわけにもいきませんので、腹の足しになる美味しいフランス風菓子パンを近所のケーキ屋さんから買ってきて接待することにしました。カスタードクリームがおいしいと、次男はかぶりついていました。

「何も残さないで食べてしまうかも。」

話に余りにも花が咲き、大声でしゃべりまくっていたせいか、電話も聞こえずメッセージもとらなかったのですが、それとは知らない長男から、

「すぐ傍の喫茶店にいるんだけど、来ない？」

と電話のメッセージがはいったようでした。その2~3日後に、テニス世界大会のためパリにお嫁さんとお嫁さんの息子二人と嫁との間の娘一人を連れて出かけることになりましたので、その前に会いたかったようです。

「ごめんなさいね、帰ってきたらあいましょう。」

この大会で伝説のチャンピオンのナデルが観衆の前で引退宣言をし、華やかなテニスチャンピオンの経歴の幕を閉じました。ナデルとテニスをしたこととなる嫁は涙ぐんでいたかもしれません。

マダム田中は、ホルモン療法に慣れ、体力を少しづつ回復し、健康な体というのはこんなに楽に暮らせるものなのかなと思う日々です。ホームドクターからは、1年間は活動は休むつもりで大事をとるように言われました。とはいっても、長くあっていない友人たちのウェイティングリストをクリアし始めようかと思っているところでもあります。